

平成 20 年 5 月 28 日

各 位

西日本シティ銀行

## 消費者動向調査 No.102 「夏のボーナス使いみち調査」

西日本シティ銀行(頭取 久保田 勇夫)は、消費者動向調査を定期的を実施しております。今般、「夏のボーナス使いみち調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

調査時期：平成 20 年 4 月  
調査対象：福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人  
(うち回答者 485 人、回答率 97.0%)

### 調査結果要約

- ◆ **今年の夏のボーナス支給予想、昨年夏と比較して“少なくなる”が 5.4 ポイント増加。“多くなる”は 0.7 ポイント増加とほぼ横ばい。**  
ボーナスが“少なくなる”との予想は平成 17 年冬から減少傾向であったが、平成 19 年冬に増加へ転じ、今回も増加している。(調査結果本文 2P)
- ◆ **夏のボーナスの使いみち予定 1 位は「貯蓄」で 54.4%。2 位は「旅行・レジャー」で 37.1%。**  
夏のボーナスの支出予定、1 位は「貯蓄」で 54.4%。これは平成 5 年夏の調査以来連続のトップ。(調査結果本文 3P)
- ◆ **夏のボーナスを貯蓄する目的は「将来の生活費補てんのため」が 34.4%で 1 位。次いで「将来の教育費のため」が 33.0%で 2 位。**  
主婦の実感としては、食品やガソリン価格等身近な商品の足元での上昇から将来の生活に不安を抱えているようだ。(調査結果本文 4P)
- ◆ **夏のボーナスを貯蓄する場合、84.8%の人が安全性を重視。**  
8 割強の人が安全性に重点をおいているようだが、「収益性を重視するため、積極的に投資したい」が平成 19 年冬の調査に比べ 6.2 ポイント増加。(調査結果本文 5P)
- ◆ **関心がある金融商品は 65.2%で「預貯金」が 1 位。2 位は「保険・共済」で 23.1%。3 位は「投資信託」で 21.4%。**  
株式市場の低迷の影響からか「投資信託」が平成 19 年冬に比べ 2 位から 3 位へ後退。一方、円高の影響からか「外貨預金」が平成 19 年冬に比べ 9.9 ポイント増加。(調査結果本文 6P)
- ◆ **夏のボーナス、自由に使える金額は、昨年夏に比べ夫は 8 千円、妻も 3 千円アップ。**  
我慢するところは我慢して、自分へのご褒美は増やそうということの表れか。(調査結果本文 7P)

[調査結果本文はこちら](#)

以 上

この調査に関するお問い合わせ先  
広報文化部 堺 TEL 092-461-1869